

満足度・生活の質に関する調査報告書2023

～我が国のWell-beingの動向～

（概要）

<本報告書の背景・目的>

我が国の経済社会状況について、GDPだけでなく、満足度・生活の質に関する幅広い視点から「見える化」することが重要である。こうした観点から、主観的指標である「満足度」（生活に満足しているかを0点～10点で自己申告するもの）や、関連する生活実態（友人との交流、WLB等）の動向を把握するため「満足度・生活の質に関する調査」を2019年2月に開始した。

今般、第5回調査（2023年2月実施）の調査結果を分析し、報告書を取りまとめる。

2023年7月

内閣府 政策統括官（経済社会システム担当）

満足度・生活の質に関する調査について

○約10,000人へのインターネット調査（うち約6,200人は前回調査からの継続サンプルであるパネル調査）。
○総合的な生活満足度、13分野別の満足度、分野別の質問等により、主観・客観の両面からWell-beingを多角的に把握。

生活満足度
(総合的な満足度)

13分野別満足度

- 家計と資産の満足度
- 雇用環境と賃金の満足度
- 住宅の満足度
- 仕事と生活(WLB)の満足度
- 健康状態の満足度
- 自身の教育水準・教育環境の満足度
- 社会とのつながりの満足度
- 政治・行政・裁判所の満足度
- 自然環境の満足度
- 身の回りの安全の満足度
- 子育てのしやすさの満足度
- 介護のしやすさ・されやすさの満足度
- 生活の楽しさ・面白さの満足度

基本属性に関する質問（例）

○性別 ○年齢 ○居住地 ○世帯構成 ○子供の年齢 等

13分野別の関連質問（例）

○各分野の満足や不満に大きく影響するものについての認識
○各分野に対する将来不安

○あなた自身の健康状態（「よい」「わるい」等の主観的な認識）
○健康状態の将来不安
○健康のために実践していること（バランスのとれた食事、適度な運動等）

○子育ての感想（「楽しい」「どちらかというと楽しい」等の主観的な認識）
○子育てを気軽にお願いできる人の有無（家族、親族、友人等）
○育休の取得状況

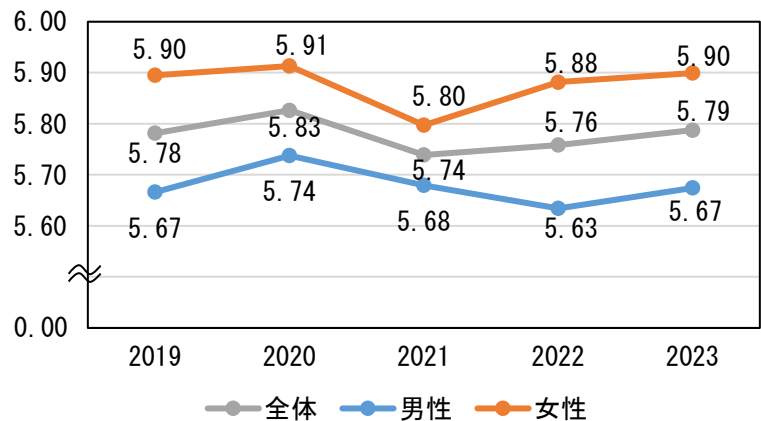
その他（例）

○1年間で経験したこと（結婚した、失業した等）
○最近の生活について（孤独を感じる、気分が沈み気が晴れない等）

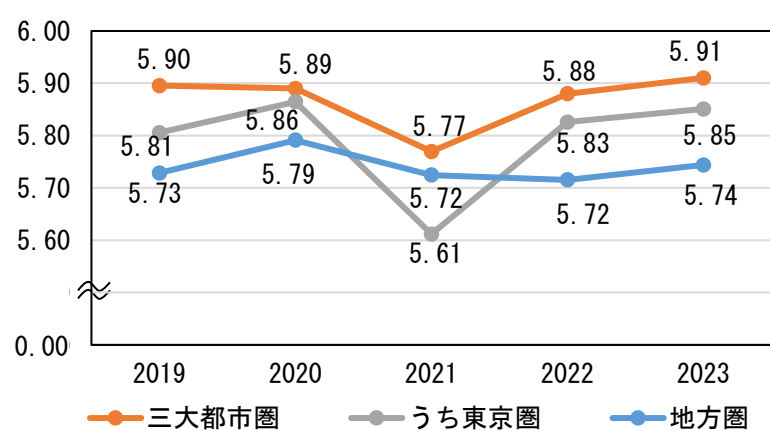
①生活満足度の動向

○「生活満足度」は昨年から概ね横ばい。女性は男性よりも高い水準で推移（図表1-1）。年齢階層別では39歳以下の層が上昇（図表1-2）。全ての地域でコロナ拡大前と同水準まで回復（図表1-3）。
○雇用形態別では、非正規雇用は正規雇用と比してコロナ禍の影響を大きく受けたが、2019年と同水準まで回復（図表1-4）。

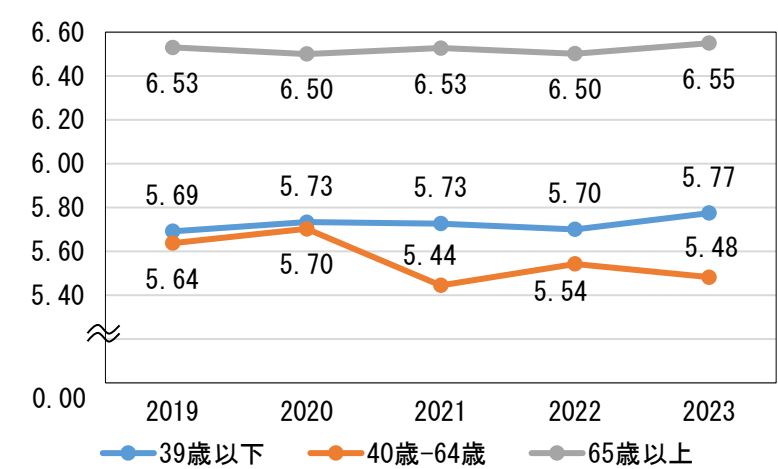
図表 1-1 「生活満足度」の推移（男女別）



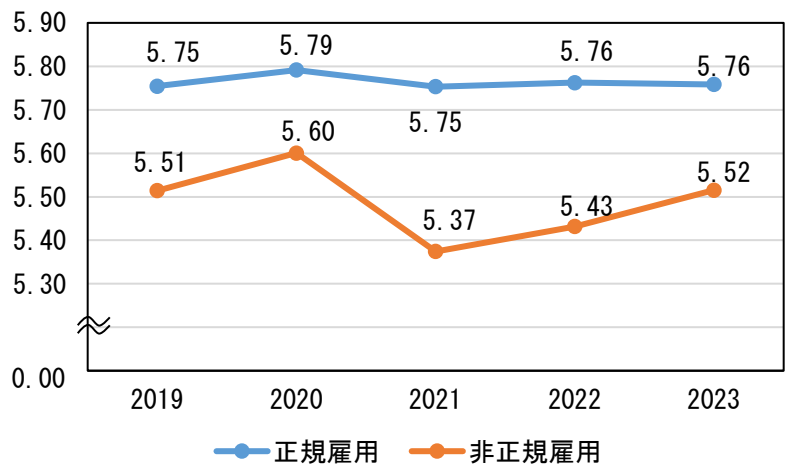
図表 1-3 「生活満足度」の推移（地域別）



図表 1-2 「生活満足度」の推移（年齢階層別）



図表 1-4 「生活満足度」の推移（雇用形態別）



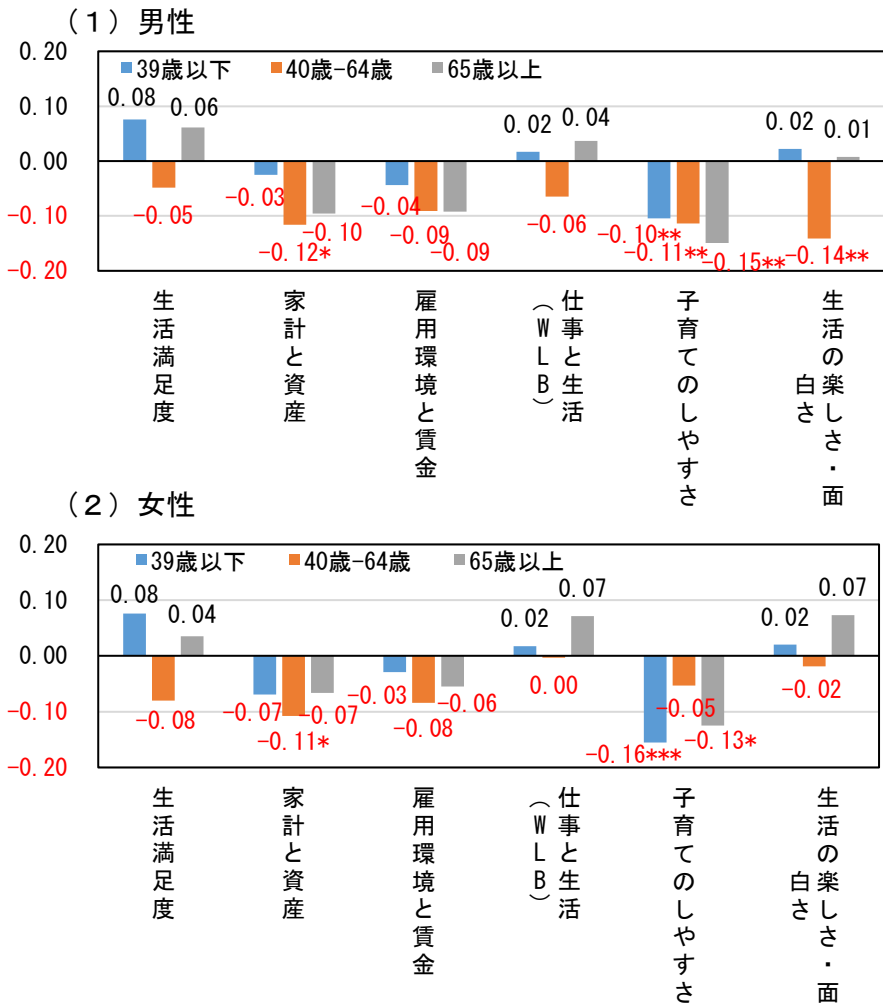
（備考）2023年調査は2023年2月10日～3月5日に実施しており、調査期間は新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行前となっている。

②分野別満足度の動向（男女・年齢別、地域別）

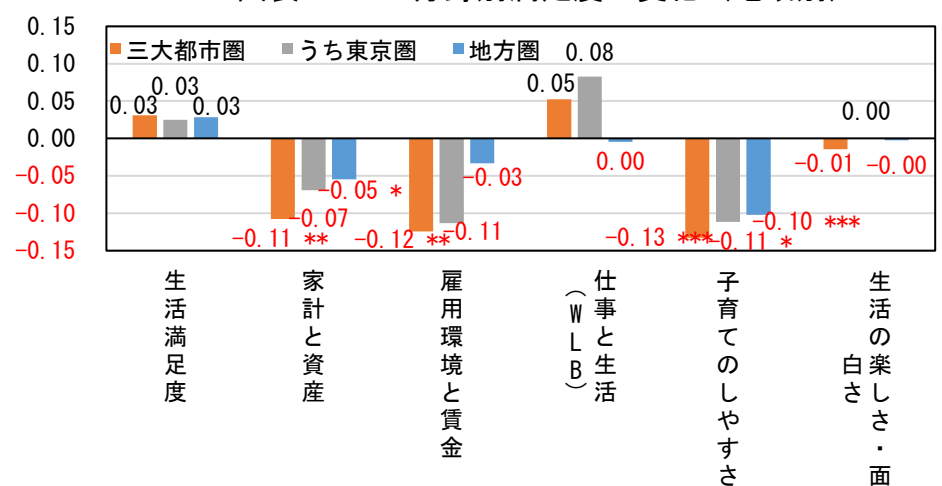
○性別、年齢別、地域別いずれも「家計と資産」、「雇用環境と賃金」、「子育てのしやすさ」が低下。男性の40歳-64歳の層で「生活の楽しさ・面白さ」が比較的大きく低下し、大都市圏では「仕事と生活（WLB）」が上昇（図表2-1）（図表2-2）。

○「生活満足度」の上昇した人、低下した人の割合はいずれも3割程度（図表2-3）。

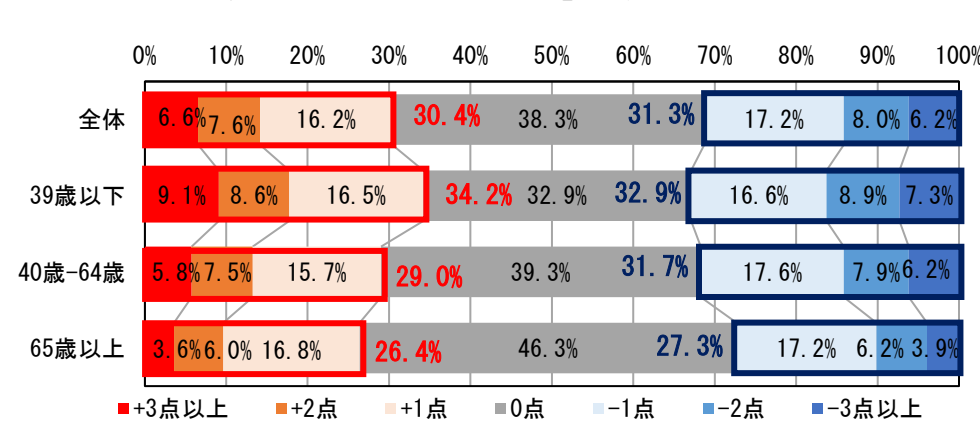
図表2-1 分野別満足度の変化（男女・年齢階層別）



図表2-2 分野別満足度の変化（地域別）



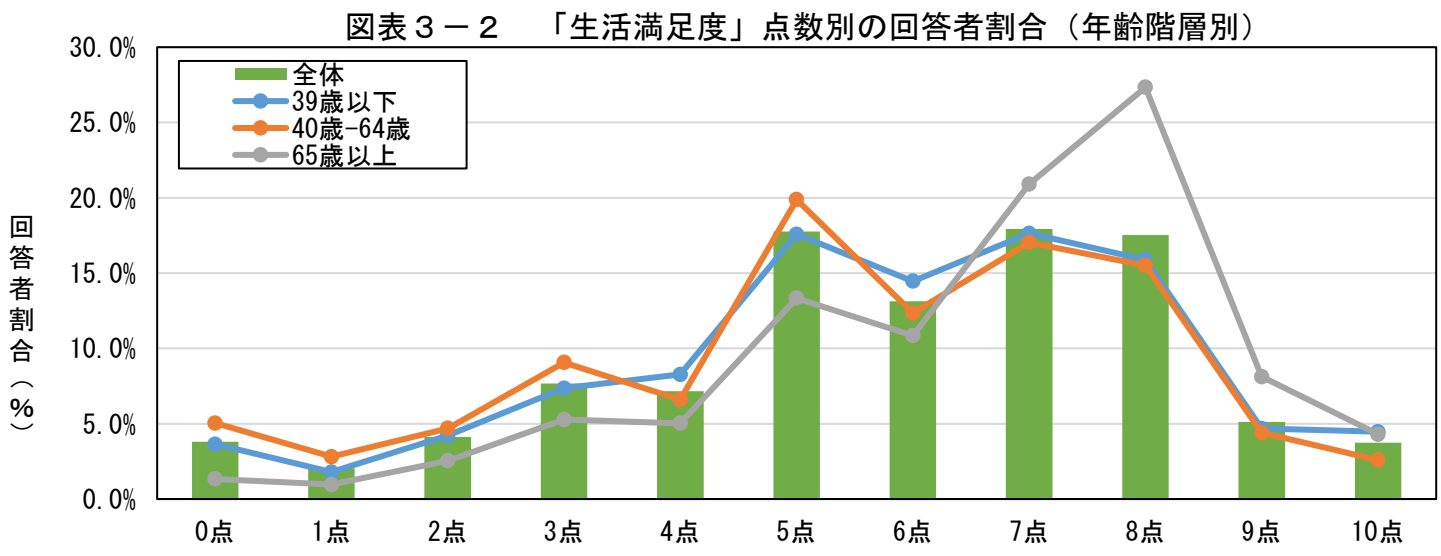
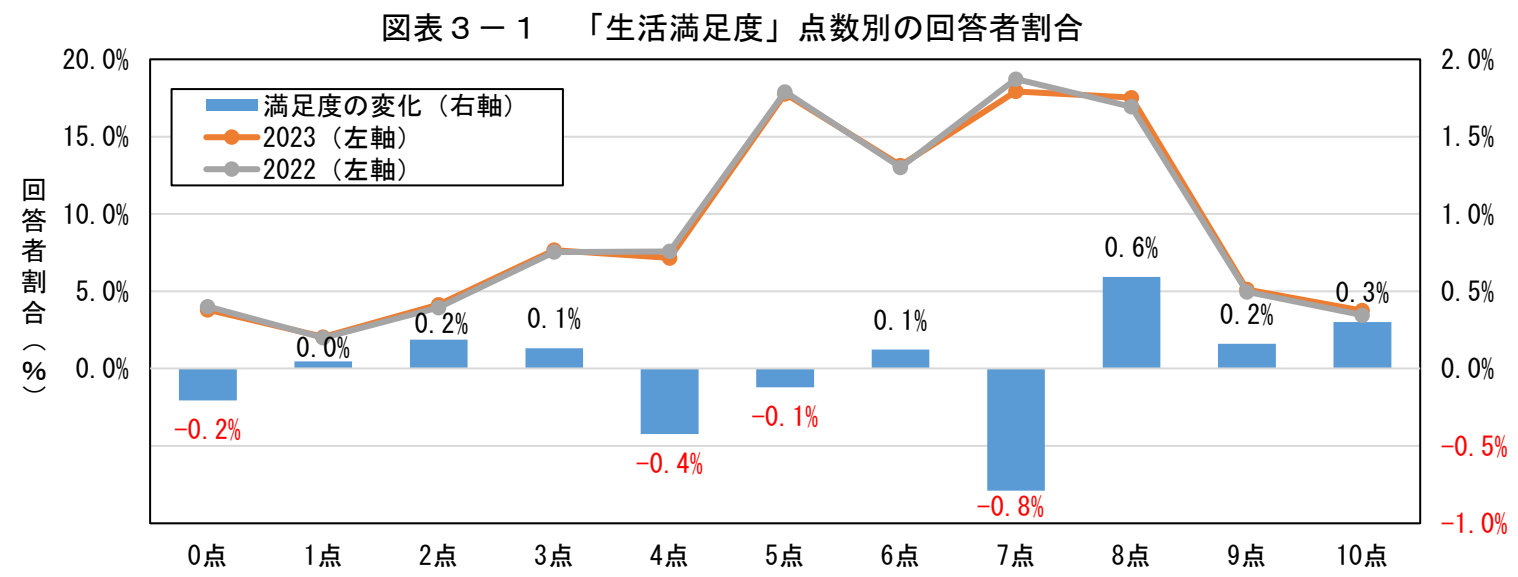
図表2-3 「生活満足度」の変化別の回答者の割合



（備考）2022年調査と2023年調査による。***, **, *はそれぞれ1%、5%、10%水準で統計上有意であることを示す。図表2-3は、2022年調査、2023年調査ともに回答したサンプル（約6200人）。4

③生活満足度の分布

○「生活満足度」の分布の形状は大きく変わらず、7点が最頻値、次いで5点、8点(図表3-1)。
○39歳以下の層は7点、40歳-64歳の層では5点、65歳以上の層は8点が最頻値(図表3-2)。

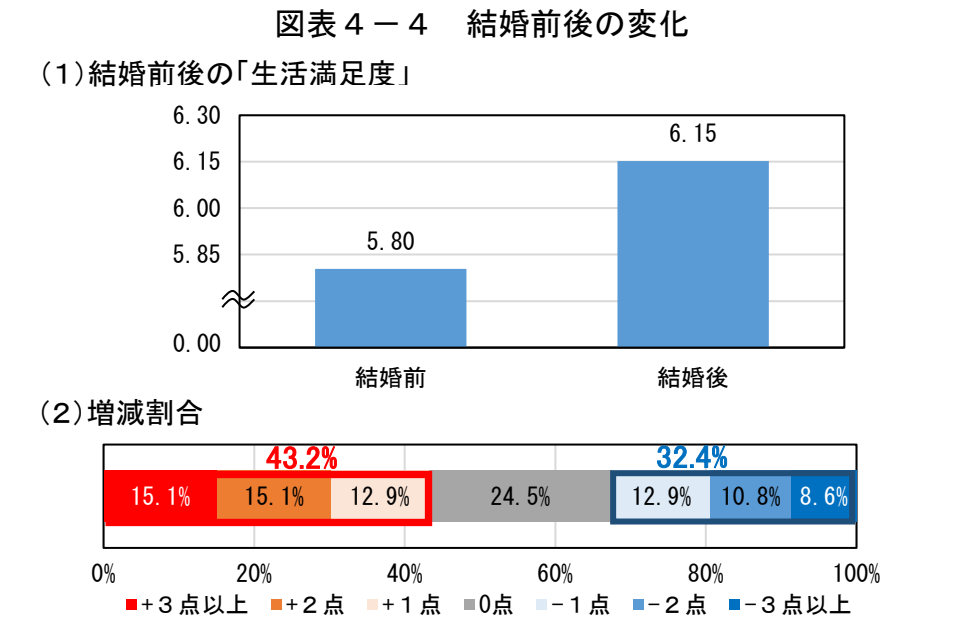
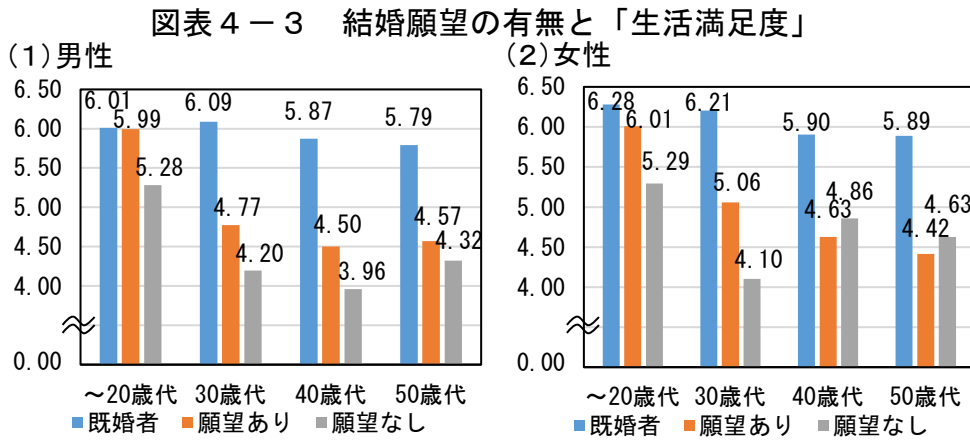
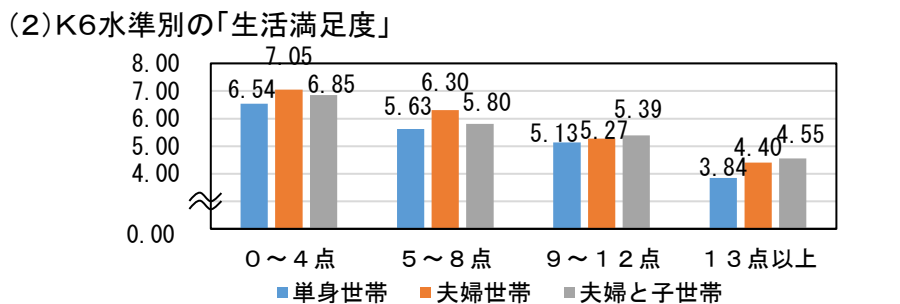
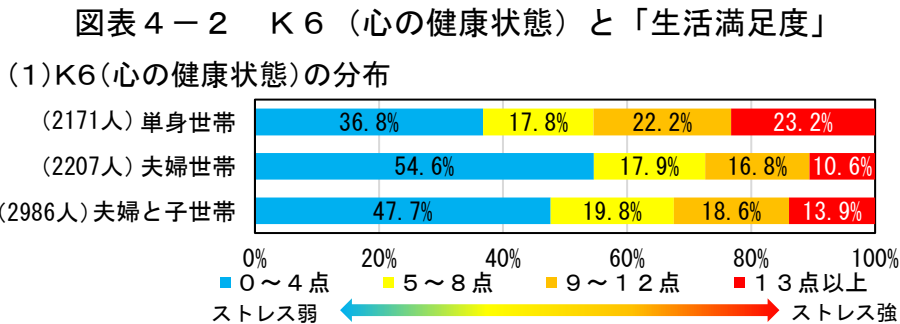
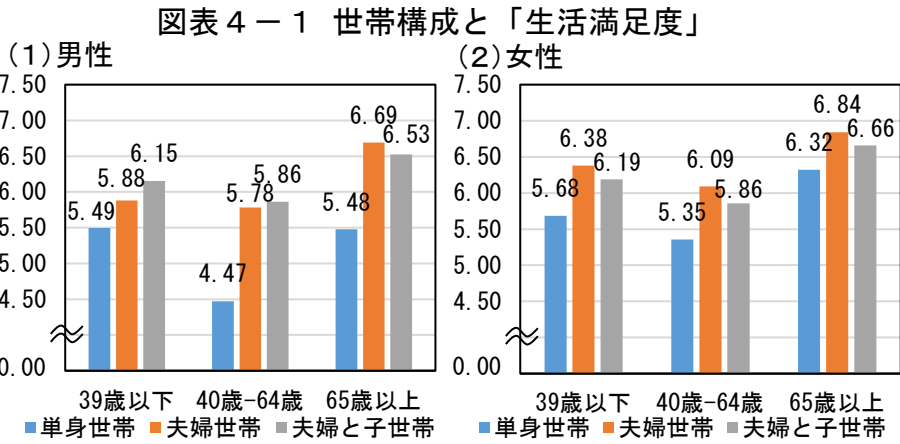


(備考) 図表3-1は、2022年調査、2023年調査の比較。図表3-2は2023年調査の年齢階層別の分布。

④世帯構成と結婚願望

○いずれの年齢階層においても、単身世帯よりも家族のいる世帯の「生活満足度」が高い(図表4-1)。また、家族のいる世帯は単身世帯と比較して精神的ストレスの低い人の割合が高い(図表4-2)。

○男性は年齢階層にかかわらず結婚願望がある人の「生活満足度」は結婚願望がない人に比べて高いが、女性の40代以降は逆の傾向(図表4-3)。また、結婚前後で「生活満足度」は平均的に上昇(図表4-4)。



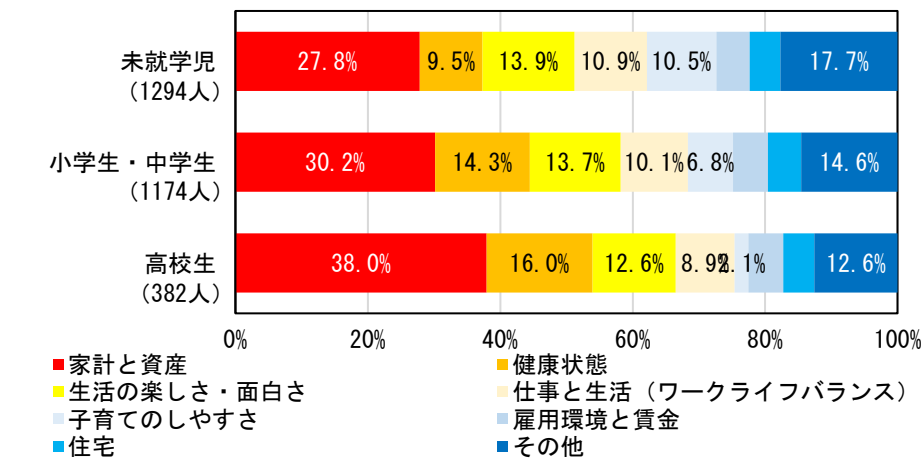
(備考) K6とは、精神疾患リスクを計測するために開発された心の健康状態を測る指標のひとつ。6つの項目を5段階で点数化し、合計点数が高いほど精神的ストレスが強く、心の健康が損なわれている可能性が示唆される。図表4-4は、2022年と2023年において過去1年間で経験したこととして「結婚」を選択した人(計139人)の結婚前後の比較。

⑤就学状況と子育てのしやすさ

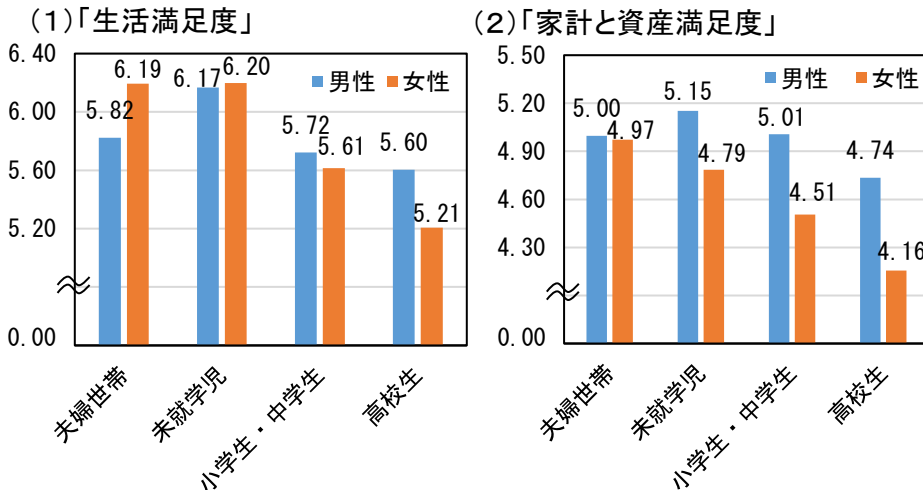
○こどもが成長するにつれて、家計と資産の「生活満足度」への影響が増大(図表5-1)。「生活満足度」と「家計と資産満足度」はこどもの成長とともに低下(図表5-2)。

○子育てを気軽にお願いできる人がいる場合に「子育てのしやすさ満足度」が高くなるのに対し、テレワークの可否ではそこまで顕著な差はない。また、交流する友人がいる場合に「子育てのしやすさ満足度」が高くなり、特に女性では頻度が多いほど高まる傾向にある。(図表5-3)。

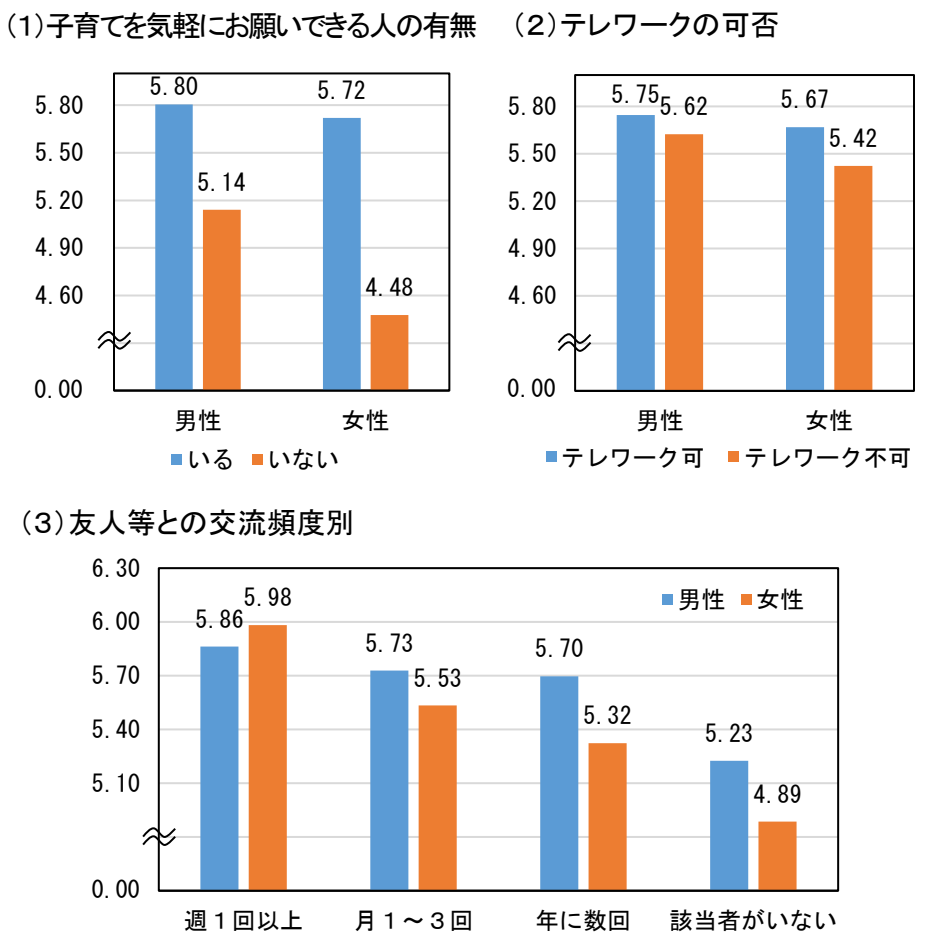
図表5-1 「生活満足度」に影響を与える項目



図表5-2 こどもの就学状況と満足度



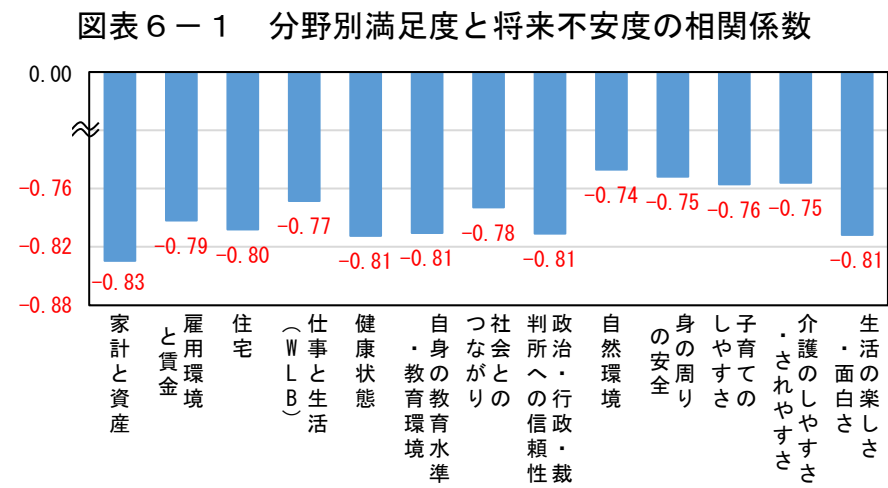
図表5-3 「子育てのしやすさ満足度」



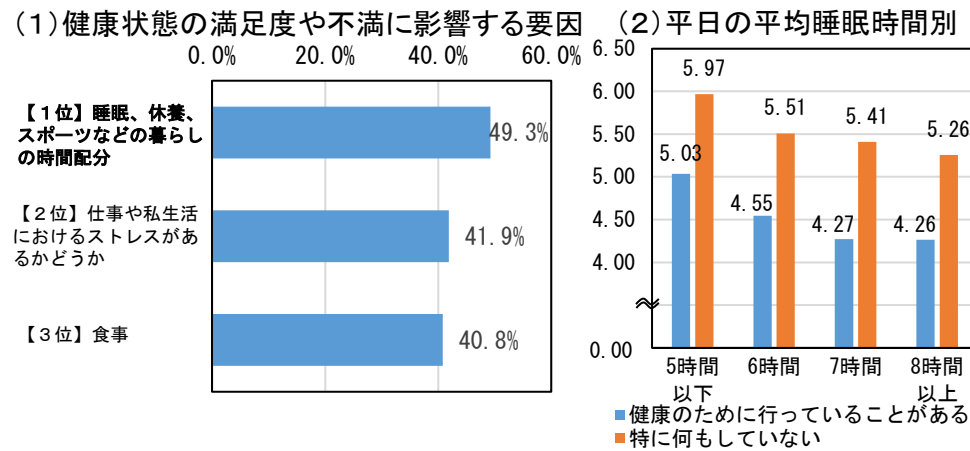
(備考) 図表5-1、2は、未就学児、小学生・中学生、高校生が世帯にどうかで分類し、65歳以上を除いている。複数該当の場合は、それぞれに重複計上。図表5-3は、18歳未満のこどもがいる子育て世帯が対象。

⑥将来不安度の動向

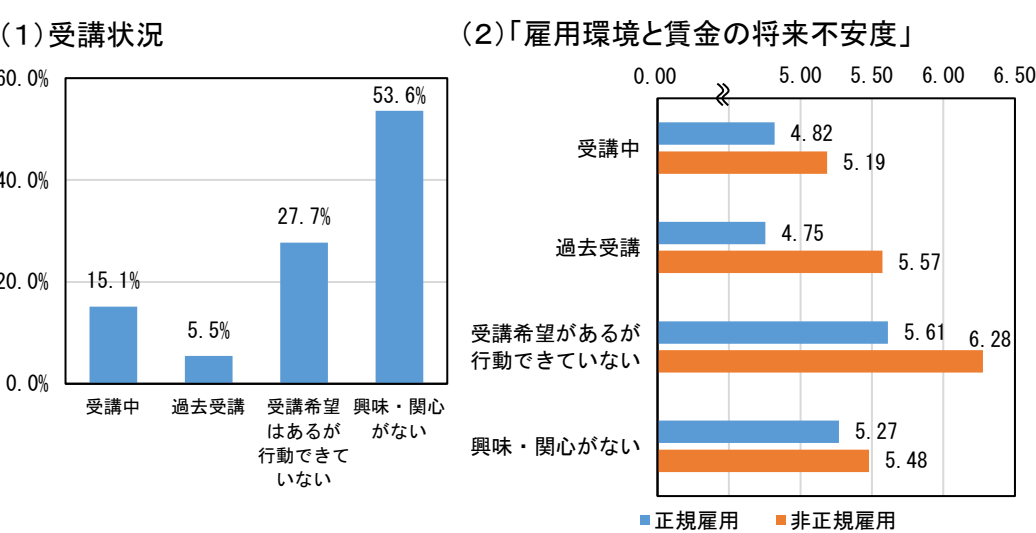
- 分野別の満足度と将来不安度の間には強い相関関係がある(図表6-1)。
- リカレント教育受講中、過去受講と回答した人は「雇用環境と賃金の将来不安度」が低い(図表6-2)。
- 健康のために行っていることがある人は何もしていない人に比べて「健康状態の将来不安度」が低い(図表6-3)。
- 困ったときに頼れる人が多い人は少ない人に比べて「社会とのつながりの将来不安度」が低い(図表6-4)。



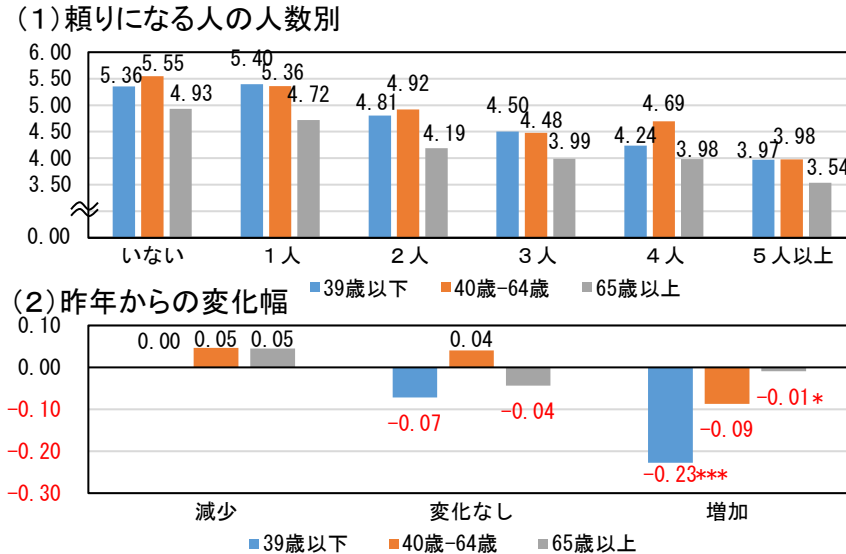
図表6-3 「健康状態の将来不安度」



図表6-2 リカレント教育受講状況と将来不安度



図表6-4 「社会とのつながりの将来不安度」



(備考) 図表6-1は全ての分野において、現在の満足度が高いほど将来不安度が低く、現在の満足度が低いほど将来不安度が高い傾向にあることを表している。
図表6-2は正規雇用者及び非正規雇用者が対象。図表6-4(2)は2022年調査と2023年調査の比較。***、*はそれぞれ1%、10%水準で統計上有意であることを示す。

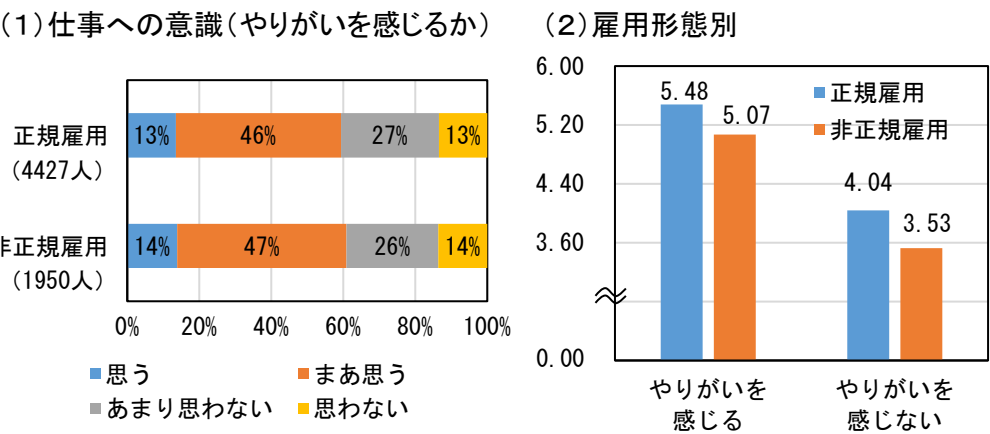
⑦仕事のやりがいと満足度

○雇用形態別にみると仕事への意識に大きな違いはない。また、雇用形態や年収にかかわらず、仕事へのやりがいを感じる人は感じない人に比べて、「雇用環境と賃金満足度」が高い(図表7-1)。

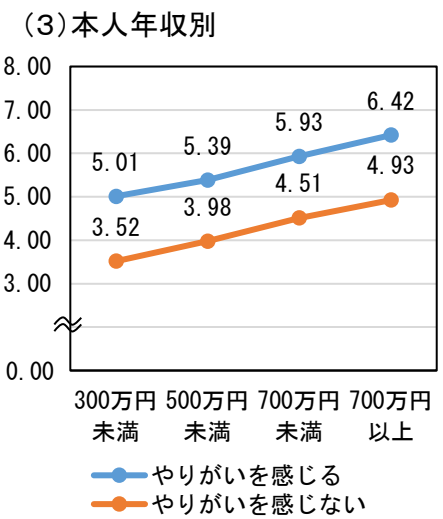
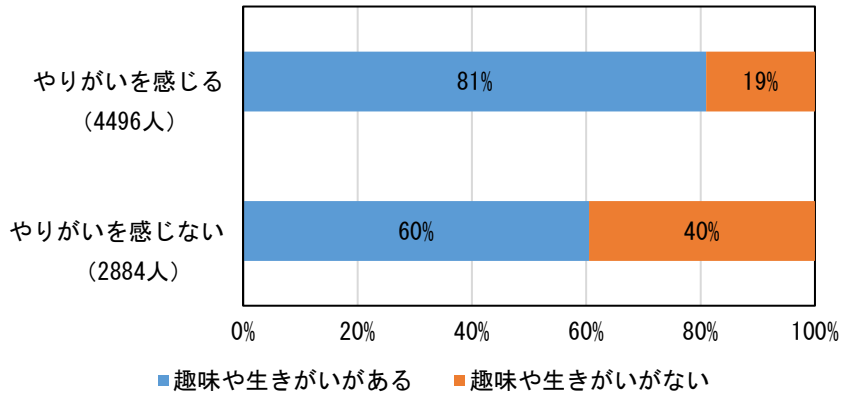
○「WLB満足度」も仕事へのやりがいを感じる人がそうでない人に比べて高く、テレワークの可否による差は小さい(図表7-2)。

○仕事へのやりがいを感じる場合は相対的に生きがいもある割合が高い(図表7-3)。仕事へのやりがい及び生きがいの両方がある場合に満足度が最も高い(図表7-4)。

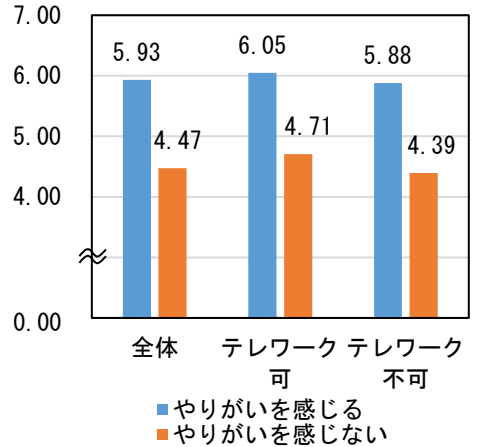
図表7-1 仕事へのやりがいと「雇用環境と賃金満足度」



図表7-3 仕事へのやりがいと生きがいの有無



図表7-2 テレワークと「WLB満足度」



図表7-4 仕事へのやりがい・生きがいと満足度

